



「インドネシア共和国 航空ネットワーク再構築によるインドネシア、マカッサル空港 拡張、運営事業準備調査(PPP インフラ事業)」(JICA-PPPFS)への参画について

当社は、独立行政法人国際協力機構(JICA)が業務委託契約に基づき実施する、協力準備調査「インドネシア共和国航空ネットワーク再構築によるマカッサル空港拡張、運営事業準備調査(PPP インフラ事業)」に、空港オペレーターとしての経験を活かし、参画します。

○ 調査業務の背景

本調査業務の対象であるマカッサル国際空港(2013年旅客数943万人(※))は、インドネシア東部のゲートウェイで、旅客ターミナル容量を既に超過しており、同空港の拡張は喫緊の課題となっています。

一方、インドネシアの首都空港であるジャカルタ、スカルノハッタ国際空港(2013年旅客数6,013万人(※))も地方空港からの中小型機の大量乗り入れ(ジャカルタへの一極集中)等により容量を大幅に超過している状況にあります。

(※ACI Annual Report)

○ 調査内容

マカッサル国際空港を「リージョナルハブ」として、ジャカルター極集中のインドネシア航空ネットワークを再構築するとともに、マカッサル国際空港の拡張および運営維持管理について、事業性調査(FS=Feasibility Study)を行います。

○ 今後のスケジュール

調査期間は約1年間を予定しています。

○ 当社の役割

この調査は、JICAからの委託を受け、三菱重工業株式会社、三菱商事株式会社が代表法人、提案法人として取り組むもので、当社は空港オペレーターとしての専門能力を活かし、マカッサル空港の拡張に求められる要求仕様等を取り纏めるとともに、空港維持管理体制等を検討し、本調査業務の完遂をめざします。

本件について、社長の安藤圭一は以下のようにコメントしております。

海外事業連携に積極的に取り組んでいる当社として、JICAが行う海外空港案件に初めて参画できますことを大変有意義に考えております。

関西国際空港において、乗継が便利な「第1ターミナルビル」、日本初の本格的な「LCC専用ターミナルビル」(第2ターミナルビル)を建設、運営している当社の経験を存分に活かし、充実した調査となるよう関係企業と連携して取り組んでまいります。





(参考)

○インドネシア・マカッサルについて

東インドネシアの中心的都市で南スラウェシ州の州都。

東部インドネシア地域の開発拠点で、港湾都市であるとともに、陸と海の両面で豊富な天然資源を有し、産業振興の発展が期待されている地域。

○マカッサル国際空港について

【位置】

- ・マカッサル市街から約 20km。
- ・高速道路で接続。

【空港緒元】

- ・滑走路 2 本 (3,100m × 1, 2,500m × 1)
- ・年間旅客数 943 万人 (2013 年)

